愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	経済学		
担当者(Instructors)	岩本 光一郎	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

ミクロ経済学として、家計の消費行動論から需要曲線を、企業の生産決定論から供給曲線をそれぞれ導く。それらに基づき、市場経済論を扱う。また、マクロ経済学では、国内総生産（GDP）の各構成要因を説明した上で、国民経済について理解する。その後、国際収支、外国為替相場について基礎的内容を説明した上で、日本経済の状況を説明する。本授業で目標とする点は、経済学的な基本的見方を身につけることと、各自がその中で毎日の生活を送っている日本経済の現状が理解できるようになることである。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義と学生とのディスカッションを交えた授業を実施する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	講義の概要とねらい	講義の概要を説明する。あわせて評価方法、注意事項を示し、本講義の受講条件、単位取得条件を理解する。	□
第2回	経済学の成立	なぜ、経済学が必要なのか。経済活動が生み出した富とその社会的配分が経済学の発生とつながったことを理解する。	□
第3回	経済学におけるミクロとマクロ	経済活動を個人単位で見た場合と個人の集合として捉えた場合の視点をちがいが生み出す経済現象の捉え方を理解する。	□
第4回	経営学と経済学のちがい	企業経営の単位を経済学ではどのように扱うのか。企業行動を経済学と経営学ではどのような視点から捉えているか両者の視点の特徴を理解する。	□
第5回	国と経済	世界各国が築いてきた経済の単位としての国力はGDPの大きさとして示される。ではGDPの大きさと国力とはどのように結び付くのか、「国力」を軸にして経済活動について理解する。	□
第6回	交換と経済	物的交換と貨幣の発生を考えながら、経済における「交換」の意味を考え貨幣の役割を理解する。	□
第7回	資本主義の発展メカニズム	生産行動と消費行動が経済活動の拡大がもたらし、経済行動での投資の拡大が資本主議経済へと結び付いたことを説明し、投資行動の重要性を理解する。	□
第8回	日本経済の発展と経済成長１	明治維新から太平洋戦争にかけて、日本が進めたきた経済成長政策の特質を説明し、日本経済の成長の特徴を理解する。	□
第9回	日本経済の発展と経済成長２	太平洋戦争以後の、戦後復興から行動経済成長をへてバブル崩壊までの日本が進めたきた経済成長政策の特質を説明し、日本経済の成長の特徴を理解する。	□
第10回	日本経済の発展と経済成長３	2000年第以降、日本が進めたきた経済成長政策の特質を説明し、日本経済の成長の特徴を理解する。	□
第11回	国家財政と経済成長	ケインズの財政の考え方と経済成長の関係を説明する。「国家財政」がもたらす国内経済への影響を理解する。	□
第12回	労働市場と経済成長	1980年代半ばからはじまった、労働市場への非正規労働の導入が企業行動に与えた問題点を整理し、労働経済と経済成長の関係を理解する。	□
第13回	格差社会の到来と日本経済の成長	経済活動が経済という視点からだけではなく、世代間での文化水準を移転する問題を解説する。所得格差、教育格差が生み出す「格差社会」の問題点と日本経済の成長との関係を理解する。	□

第14回	IT時代の課題と経済学	現在の日本経済は、IT技術、DX（デジタル・トランスファー）の到来により、求められる仕事の内容が変化している。これからの経済は無形価値を生み出す時代と考えられており、これまでの経済の考え方はヒトの評価にも大きな影響をもたらしている点を理解する。	□
第15回	まとめ	講義全体をふり返り、これから必要となる人材とは何かを解説し、経済学との関係を理解する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

【事前学習】では次回授業の内容及び課題の遂行(約２時間）、また【事後学習】では授業内で学んだ内容を再確認し、課題を遂行する(約２時間)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、授業での感想シートを利用し学生からの質問について随時対応する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	社会の動き（とくに経済）とその意味を考えることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験と授業参加・貢献度などを総合的に判断して評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて紹介する。	
2		
3		
4		
5		